国際熱帯木材機関（ＩＴＴＯ）
第 62 回理事会（ITTC-62）開会式
生稲外務大臣政務官挨拶
（令和８年 11 月９日（月）（日-英仏西同時通訳））

冒頭

●プライス ITTC 議長、サックル ITTO 事務局長、各国政府代表の皆様、松浦横浜副市長、御列席の皆様。

●第 62 回 ITTO 理事会が、各国代表団の皆様の参加を得て、ここ横浜において開催されることを、ホスト国政府を代表して心より歓迎いたします。

●また、本年、ITTO が設立 40 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

●サックル事務局長をはじめ、ITTO 事務局職員の皆様、ホストシティである横浜市及び各国関係者の皆様が、この会議の開催を実現するために多大なご尽力をなされたことに感謝申し上げます。

世界情勢・熱帯林をとりまく現状について

●今、世界では、中東情勢の緊迫化などの地政学リスクにより、多国間主義の在り方が問われています。

●また、欧州の熱波をはじめとした異常気象などの気候変動リスクも益々深刻化しており、エネルギーや木材を含むあらゆるサプライチェーンに打撃を与え、森林火災や生物多様性の喪失といった待ったなしの課題を加速させています。

●こうした状況の中、世界の熱帯林面積の 80%、及び熱帯木材貿易総額の 90%をカバーする国々が加盟する ITTO は、熱帯林の持続可能な経営や合法的な熱帯木材の利用を担う唯一の国際機関として、現在はもちろん将来にわたり、より一層重要な役割を担うと考えております。

●特に本年は、リオ三条約の締約国会議が同時に開催される年でもあり、環境問題に関する国際協力に対し、世界の関心と注目が高まっています。

●この世界のトレンドにあわせ、ITTO が益々そのプレゼンスを高め、地球規模課題の解決に貢献することを期待します。

今次理事会について

●本理事会は、2029 年 12 月に期限を迎える国際熱帯木材協定のその後のあり方など、ITTO の将来に関わる事項を議論する、非常に重要な機会であると承知しています。

●ITTO が新たな地球規模課題に対応していく上で必要な要素が、加盟国間で十分に議論・検討され、有益な成果につながることをホスト国としても期待しております。

2027 年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）

●さて、本日お越しいただいている横浜では、来年の３月から国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)が開催予定であり、ITTO からは既に参加表明をいただいております。

●横浜に本部を置く唯一の国際機関として、この国際園芸博覧会の成功に大きく貢献していただけると期待しており、外務省としても参加国・機関と引き続き協力し、準備を進めてまいります。

結び

●木材供給、脱炭素化、生物多様性の保全等、人類の存続にとって不可欠な価値を提供する熱帯林を、どのように持続的かつ合法的に保全・利用していくのか。

●本理事会での活発な議論が、ITTO 加盟国のみならず、世界全体のよりよい熱帯林の保全・利用に繋がることを祈念しております。

●最後に、皆様の日本でのご滞在が素晴らしいものとなることをお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

●御清聴ありがとうございました。